

第五十五回フオト旬会優秀作品(27年10月12日)

自由題

秋高しあつけらかんと
太鼓腹 矢澤 正二
寸 評:伊豆の大室山である。
なんの特徴もない写真に、意
味不明の句が付いた。ところ
が両者を合わせると味のある
作品に仕上がっている。これ
ぞフオト旬の醍醐味というか
作者は二か月連続でトップの
成績を獲得した。めでたい。



さらし首 **さめざめ**泣いて
罪を詫び 松田 昌康
寸 評:釜山の海鮮市場でのスナッ
プ。中7は面白いが、さらし首が泣
くというのは腑に落ちないので
→罪詫びて **さめざめ**泣くもさらし首



鳥追わず愛嬌ふりまく

へのへの君 大月和彦

寸評：実りの秋の雰囲気がよく出ている写真だ。合掌造りの背景も良い。平凡な句がへのへの君の一言で締まった



フーテン長くマドンナ達も

年齢をとり 下山 健夫

寸評：懐かしいフーテンの寅さんの銅像を、かつての乙女達が囲んでいる。銀幕で活躍したマドンナ女優もよいお年の筈。句をもう少し簡明にしたい。

→寅さんもマドンナ達も齢をとり

句付け



今月は平尾さんの出題で、北海道函館の海鮮物市場の写真です。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1) 蟹食えば殻に注ぎたし爛の酒 | 大越 浩平 |
| 2) 横並び赤ら顔して朝寝かな | 平尾 富男 |
| 3) 見切り品明日は我が身か亭主族 | 三 春 |
| 4) 腹見せてお客を誘う湯上りに | 平尾 富男 |
| 5) 腹を見せ偽らないと妻に詫び | 清水 勝 |

寸評：

- 1) 「柿食えば鐘がなるなり法隆寺」の名句をもじった。各文節の接頭語を「カ」で揃え調子を整えて、落ち着いた佳句に仕上げた。
- 2) 朝市の売り場に並んだ情景を、二日酔いで朝寝をしている自分達に例えた。
- 3) 女房に見切られている亭主族の悲哀を詠った。
- 4) 茹でられた蟹を「湯上り」と表現して、思わせぶりの句をモノにした。
- 5) 後ろめたい気持ちを妻に言い訳する情けない亭主（ペンクラブに多い!）

以上